年頭の所感

市長

皆さん、あけましておめでとうございます。

今年もよろしく願いいたします。

令和7年の年頭にあたり今年一年の所感をお伝えいたします。

まず、改めまして昨年を振り返りますと、やはり、元日に発生した能登半島地震と、その翌日の羽田空港での航空事故が、非常に強く、印象に残っております。

一体、どんな一年になってしまうのかと、全く心中穏やかではない新年の始まりであり、安全・安心について、本当に、深く考えさせられた一年の始まりでありました。

横須賀市からも、すぐに、緊急消防援助隊や保健師など、多くの職員を派遣しましたが、その後の能登地方での豪雨被害も重なり、いまだに避難生活を送っている方も多くいらっしゃり、大変な思いをされていると聞いています。

改めまして被害に遭われた方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りする次第です。

横須賀市を含む三浦半島は、半島として同じような地勢に位置することから、この度のことを大きな教訓としてとらえ、いざという時の備えに、より重点をおき、ハード、ソフトの両面で整備を進めてきました。

ただ、大規模災害の対応は、能登半島の事例を見ても、三浦半島全体の課題であるにとらえています。

そこで現在では、三浦半島の4市1町が、さらに連携、協力して対応できるよう、昨年末より、検討を進めているところです。

このように、痛ましい震災から始まった昨年も、夏にはパリオリンピックが開催され、多くの日本人選手の活躍に、日本中が勇気をいただきました。

スポーツには、人の心を奮い立たせ、前向きな気持ちにさせてくれる力があると思っています。

そこでこれまで横須賀市では、企業の皆様との連携を図りながら、BMXやパルクールの全国大会を開催するなど、アーバンスポーツの普及を推し進めています。

また、横須賀の海を活かしたウインドサーフィンワールドカップも、第6回となる大会を開催し、ブランド力の高まりを強く感じているところです。

今後も、この流れを止めることなく、より積極的に、民官連携を進め、横須賀への投資を、呼び込んでいきたいと思っています。

そして、いよいよ再来月には、横須賀市立総合医療センターが久里浜に開院予定です。

ここでは新たな医療拠点として、病床数は450床、診療科も30科の開設に加え、三浦半島で初めてとなる、最先端の医療機器の導入を予定しており、医療の面からも、これまで以上に、市民の皆様にも、安全・安心を提供できるようになると考えております。

また、昨年来、横須賀の街の形も、目に見える形で、大きく変わりつつあります。

いまはまだ、解体工事中ですが、4年後の令和11年には、横須賀の街の顔とも言える横須賀中央駅前に、住居と商業施設やホテルが入る地下1階、地上33階建て、高さ約127メートルの建物が、再開発事業として竣工予定となっております。

同じ中央地区では、他にも再開発の検討が進んでおり、追浜駅前でも京急久里浜駅前でも、再開

発事業が、着実に前に進んでおります。

併せて浦賀では、住友重機械工業さんとの、これまで長い期間をかけ培ってきたご厚誼が実り、浦賀ドック跡地の利活用に向け、事業者の公募を進めているところです。

ぜひ、今後の横須賀の街の姿の変容に、大いに期待をいただきたいと思います。

ただ、これまでもお伝えさせていただいているとおり、行政の最終目的は福祉の充実であります。その目指すべき姿が、横須賀で暮らすすべての人々が、多様性を認め合い、誰もが手を取り合っ

て、慈しみあい、助け合うことのできる、「誰も一人にさせないまち」であります。今年も、すべての施策が、「誰も一人にさせないまち」への、力強い追い風となり、市民の皆様が、安心して暮らせる社会を実現できるよう、引き続き、全身全霊で取り組んでいく所存です。

そこで私は今年の漢字として、つくると読む「創」の字を選びました。

「創意工夫」の「創」の字であり、「天地創造」の「創」の字であります。

コロナ禍以来、社会は大きく、そして加速度をつけ、変化を続けています。

横須賀市は、むしろその変化を力に変え、新しい多くの流れを、呼び込み、顕在化させ、さらには様々な国内初、県内初の試みを横須賀から発信し、大きな風を巻き起こして来ました。

ぜひ、今年は、これらの風から、新たな価値を創造し、横須賀の掛け替えのない財産として、市民の皆様へ、更なる貢献をしていくという決意を、年頭の所感として、お伝えしたいと思います。今年も、引き続き、よろしく願いいたします。

■質疑応答

記者

夏の横須賀市長選について、現時点で出馬されるお考えはありますか。

市長

前向きに考えています。ということだけはお伝えしたいと思います。

完成させなければいけないことがあります。

今年、来年と横須賀のビジョンとして掲げたグランドデザインを完成させるためには、あと数年かかると思っています。

完成させるには新たな決意で臨まなければならないという意味で、ぜひ前向きに夏の市長選挙は考えていきたいとお話をさせていただければと思います。

記者

今日の午前中に鎌倉市でも年頭の記者会見がありました。

鎌倉市の松尾市長が秋の鎌倉市長選挙について、夏頃に考えを正式に表明するというご発言がありました。

上地市長は、いつ頃正式表明をされる予定でしょうか。

市長

今の決意をもって、表明と理解していただければと思います。

新しい予算は、かなりの想いを込めて編成しています。

この実現を見ずに辞めることはできないと思っていますので、ぜひそのようにご理解いただければと思います。

記者

米海軍横須賀基地の排水からP F A Sが検出された問題が以前話題になりましたが、昨年5月に

米海軍が防衛省を通じて日本の法令でPFOS・PFOAの排水基準がなく、分析する必要がないという説明がありました。

一方で環境省が先月、基準値を超えた場合の改善を法律で義務付けることを決めました。来年の2026年4月に施行を目指すということですが、市としてはどのように受け止めていますか。

中野市長特命参与

昨年5月から国に排水基準を設けるように求めている、それからしばらく時間が経っていますので、何らかの形で国に対して今の状況と我々の要請について、どう応え、どうしていくかと確認したいと考えています。

市長

まだ確認はしていませんが、これから確認しなければならないと思っています。

記者

もし施行された場合は、改めて米海軍横須賀基地に対して再度の調査や説明を求めたりするということを現時点で想定されていますか。

中野特命参与

この話については、在日米軍と日本政府で今までも話をしていきますので、まずは日本政府に対して話をしていくということが建付けだと考えています。

記者

グランドデザインの完成まであと数年かかるというお話は、前回の市長選挙で復活3構想として「海洋都市」「音楽・スポーツ・エンターテインメント」「谷戸再生」というものを挙げられていましたが、具体的にあと数年かかる事業で市長が思っているものはどのようなものですか。

市長

海洋都市と浦賀の復活です。

海洋都市を創り上げていくためには、最終的な横須賀の姿として私が市長に立候補した時から申し上げていますが、北・中央・南の3つの軸を中心に海洋都市として発展させていきたいという思いが強くあり、最終的には浦賀の復活・復興なくしてこの構想は立ち上がらないと考えています。

浦賀の復活なくして画竜点睛を欠くと思っていますので、浦賀の復活をしっかりと見届けることが私の使命だと思っています。

浦賀については、街の再開発に関する事業者を公募しており、浦賀の新しい姿が提案されると思います。

これにある程度の先鞭をつけることが私の役割だと感じています。

記者

これまでの任期中に、ジェンダー平等などについてもかなり力を入れてきたと思います。なかなか国が動かない状況ですが、次の任期では改めて今考えているもう一歩進めていきたいようなことがあれば教えてください。

市長

すべてにおいての差別や区別のない社会は私の理想とする社会です。

これはいつも申し上げていることになりますが、ジェンダー平等も含めて、差別のない社会を作

っていきたいというものが私のもう一つのテーマですので、国はどうであれ横須賀市では完成させていかなければならないと思っています。

記者

ジェンダーに関わらずということで、川崎市では包括的な差別禁止条例などの制定に向けての動きがありますが、横須賀市では条例制定に向けた動きはありますか。

市長

これからは考えていかなければならないと思いますが、横須賀は比較的多様性と申し上げますか、多様性を重んじて差別のない社会でした。

おっしゃるような社会に変わっていくのであれば、いずれは必要になってくると思いますが、現時点では横須賀市民は賢明な人が多いと思っていますので、今のところは考えていません。